

## 国連環境総会（UNEA 4）ハイレベルセグメント勝俣孝明政務官ステートメント

### （冒頭）

- 議長、各国の閣僚の皆様、本日お集まりの皆様、日本政府を代表し、ステートメントを行うことを、光栄に思います。
- まず、先日の航空機事故の犠牲者及び御遺族の皆さまに、心から哀悼の意を表します。
- 私からは、2点、海洋プラスチックごみと資源効率性・循環経済について述べたいと思います。

### （海洋プラスチックごみ問題）

- まず第1に、海洋プラスチックごみの対策として、重要なことは、プラスチックごみの海への流出を如何に抑えるかです。経済活動を制約する必要はありません。各国やステークホルダーが連携し、適正な廃棄物管理、海洋ごみの回収、3R、イノベーションや国際協力などの対策に取り組まなければなりません。
- 今回の UNEA において、我が国は、科学的知見を充実させる取組を直ちに行うとともに、この問題の解決に向けて幅広い対応オプションを継続的に検討することを提案しています。
- また、日本は、アジアにおける地域ナレッジハブの設立や UNEP による調査事業に対し、資金拠出を決定したことを表明しました。

### （循環経済）

- 第2に、持続可能な消費と生産に関しては、あらゆる取組を促進することが必要です。
- 我が国は中央環境審議会において、すべての使い捨てプラスチックを 25%リデュースするマイルストーンやレジ袋有料化義務化を含むプラスチック資源循環戦略の案を検討しているところです。また、洗い流し化粧品へのマイクロビーズ使用については、業界が自主的に使用中止に取り組んでおります。
- 我が国は、昨年10月、フィンランドと「世界循環経済フォーラム」を共催しました。引き続き循環経済に関する優良事例を世界と共有してまいります。
- 今回の UNEA において、我が国は、全ての関係者に対し、資源効率性・循環経済の普及啓発活動の推進を提案しています。

### （まとめ）

- 最後に、我が国は、脱炭素化と SDGs を実現するため、各地域の資源を持続可能な形で活用し、自立・分散型の社会を形成する「地域循環共生圏」づくりを進めてまいります。今年の G20 議長国として、イノベーションを通じた「環境と成長の好循環」を実現する世界のモデルとなるべく、全力で取組を進める覚悟です。
- 御清聴、ありがとうございました。